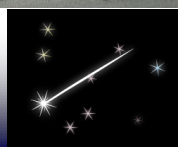
No.１５６
令和２年４月２１日
【発行】
豊橋市立青陵中学校 校長室
t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun

真っ暗だからこそ見える光がある



新型コロナウィルス感染症拡大により、世の中全体が重苦しい雰囲気に包まれています。臨時休校が続く教育現場も、もちろん例外ではありません。出口の見えない暗くて長いトンネルに迷い込んでしまったようでもあります。

そんな中、アスリートやアーティスト等の著名人が、全国、全世界に向けてエールを贈るメッセージや自らのパフォーマンスを発信しています。彼らのメッセージやパフォーマンスにふれ、心癒されるのは私だけではないはずです。

フィギュアスケートでオリンピック２連覇を果たした羽生結弦選手からのメッセージは、とりわけ私の心を揺さぶりました。

辛いことや我慢しなくてはならないこと、制約がたくさんある毎日だと思います。生活が苦しい状況ではありますが、どうか不要不急の外出を控え、感染拡大防止のためご協力をお願いいたします。

真っ暗闇なトンネルの中で、希望の光を見いだすことは、とても難しいと思います。でも、３．１１の時の夜空のように、真っ暗だからこそ見える光があると信じています。どうか無理をなさらず、周りにいる方々を信じて頼ってください。そして、皆様が心から笑顔で語り合える日が来ることを祈っています。

日本国内では「緊急事態宣言」が発出された後も感染者の確認や亡くなられた方の報告が後を絶ちません。ですが、欧米諸国におけるそれと比べて、桁違いに少ないことを皆さんお気づきだと思います。諸外国からは「PCR 検査の絶対数が少ない」ことが指摘されていますが、それを差し引いても感染者・死亡者ともに突出して少数です。緊急事態宣言が発出されているとはいえ、欧米のロックダウンのような強制的な措置ではありません。日本では感染者数はなぜ少ないのか。「真っ暗だからこそ見える光」をかき集めてみました。

１　手洗い・うがいの習慣がある

外出後の手洗い・うがい、食事前やトイレ後の手洗いが幼少の頃から徹底されています。衛生観念に関しては、日本は世界トップクラスです。

２　マスク着用の習慣がある

季節性インフルエンザの予防対策など、新型コロナウィルス感染症が流行する前から、日本ではマスクを着用する習慣がありました。欧米でのマスク着用は、「感染症で入院した人」という認識でした。

３　挨拶は「お辞儀」の習慣がある

日本での挨拶は、相手との身体接触を伴わないお辞儀が一般的です。欧米のように挨拶代わりにハグしたりキスしたりするのは一般的ではありません。

４　靴を脱ぐ習慣がある

中国やアメリカの医療機関から「靴底からもウィルスが検出された」と報告されています。ウィルスの付着以前の問題として、どちらが衛生的かは明白です。

５　公的医療保険制度が充実している

日本のように人口の多い大国で、国民皆保険によって経済的弱者の人々も手厚く守っている国は稀です。アメリカでは検査を受けるだけでも 3000 ドル(約 32 万円)かかります。

６　ＢＣＧワクチン接種を受けている

日本のように結核予防対策としてＢＣＧワクチンを義務付けている国ばかりではありません。アメリカやイタリアは義務付けていません。スペインやフランス、イギリスなどは義務化をやめてしまった国々です。

以上、紹介したことは事実ではあるものの、あくまで仮説にすぎず、科学的に検証されたものではないことを付しておきます。でも、「真っ暗だからこそ見える光」であってほしいと願わずにはいられません。

東京など７都府県に「緊急事態宣言」が発出されて２週間。「効果が表れてくるはずの２週間」です。どうか感染者数が減少していきますように…。